

手賀沼が海だった頃

NO. 8

地域の歴史や自然を皆で語ろう

2003. 7. 25

手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報

北野道彦賞を受賞して

会長 川上利男

結成4年目にして北野道彦賞を受賞、まさに快挙です。長く研究を続けてこられた先輩諸兄に対していささか申し訳ない気もありませんが、ここは素直に喜びたいと思います。

会員はもちろんですが、シンポジウム、講演会、見学会などに講師としておいでいただいた先生方、保存についての署名、さらには様々なご指導をいただいた千葉歴史学会、千葉城郭研究会の皆様方には心からお礼申し上げます。研究心だけでなく、野次馬根性も旺盛な人々が集

まっつて、松ヶ崎の山城を掘り所として様々なことをやってきました。夢は「手賀沼」から「香取の海」へと拡がり、柏市内を通っていたといわれる「古代東海道」へとつながりました。

これらの活動を進める中でわかったことは、この柏には至る処に遠い昔からの人の足跡が残されていたということです。

松ヶ崎の山ひとつを見て、縄文時代から、古墳時代、中世戦国、幕末から明治、そして現代までの足跡があります。

歴史を学ぶ中で、この足跡を次の世代に引き継ぐことの重要性を知らされました。私たちの時代が、破壊の時代であったとは言われたくないと思います。

そのためにも、足元の歴史の素晴らしさを多くの人に知ってもらいたいと思っています。

受賞を機に、探究心をさらに逞しくしてやってみます。

探究心をさらに逞しくしてやってみます。

北野賞授賞式（4月29日）



自然ウォッチング (NO3)

ドクダミの咲き乱れる 里山遊歩記

塩川智英



竹林です。

そうだ、

一昨年見事に繁栄していたウラボシは？ スダジイとコナラの陰に頑張っていたのに、きつと玉手箱の蓋を開けたのでしょね。

でも、目を転じて林床を捜して見るとフタリシズカが式株、チゴユリやジャノヒゲと肩を寄せ合って生きていました。写真。どうか玉手箱の蓋を開けないでね、と思わず念じてしまいました。



花をつけたフタリシズカ

茎がしつこく蔓延り嫌われ者の代表者ですが、植物の世界では極めて古く地球上に現れた植物でして、白く花弁の様に見えるのは実は総苞片というもので、花弁もガク片も持たない原始的な形を保っている植物です。黄色に見える徳は雌雄蕊が集まった花穂です。中国では野菜として食べられ、ヨーロッパへは出島の三賢人ツェンペルクによつて紹介され、日本の植物としてアジサイやユリ類同様愛されたのですから面白いですね。

大堀川を歩いてみませんか。五月のある日、飲料会社の脇から松ヶ崎の里山周辺を歩いてみました。

かれこれ4年間通い続けその遷り変りを見てきました。北斜面の竹、見事に大繁盛。コナラの樹さえ覆わん勢いです。それでも西斜面付近は竹の侵入もなく、シラカシ、コナラが樹冠を構成し林床にはベニシダ、ヤブコウジ、などシイ・カシ林の植物達が頑張っていました。でも、里山を進むとみごとなドクダミ畑ですし、

里山をあとにし、大堀川を柏市内に向けて歩きました。昨年度の遊歩道整備工事です。ススキやシロザに加えてオオブタクサまでもが頑張っています。

ところで、今何処でも見かける草花にドクダミがあります。臭いものと

沼南町を通っていた古代官道

―地名と遺跡から推定する―

中津川督章

近世の街道のように古代の官道をたどることは、現在のところほとんど不可能に近い。

東葛地方の古代官道で、ほぼ確かなところは二カ所あって、市川市の国府付近と我孫子市の舌状台地上東半分である。市川市では、国府台遺跡と新山遺跡の発掘で道路跡が発見され、国府付近から北に、つまり松戸方向に向かう古代官道が推定されている(注1)。また我孫子市では、鹿島前遺跡の発掘で道路跡が現れたことと(注2)、布佐の台地上に官道があったという言い伝えがあった(注3)。

それによって、我孫子市の台地上で、ほぼ国道365号線沿いに古代官道が推定されている(注2)。

その二つをつなぐ途中の官道は、茜津も含め、かなりあいまいな推定が多く不明である。私の推定もその一つに過ぎないかもしれないが、沼南町の字地名を眺めているうちに、不思議な地名の連なりを見出した。それと手賀沼低地の遺跡がつながったことで、我孫子の台地に続く、極く一部分であるが、有力な推測の一つとして述べてみたい。まず地図上の下の方、南の方から推論の過程をまじえ説明していくことにする。

「大島田」の読みかた 国道16号線と県道船取線の交わるころに大島田交差点がある。ラジオの交通情報の中にときどき出てくる交差点なので、こ

の地域の人なら知らない人はいない。ラジオでは「オオシマダ」交差点と呼んでいる。「島田」という姓がある。「シマダ」以外の読みかたが無いに等しいので、それは当然であろう。

ところが、昔からこの地に住んでいる人達は誰も「オオシマダ」とは呼ばない。何と呼ぶかといえは「オオジマタ」と発音する。シマダがジマタとなまることは考えにくい。この交差点の名称は江戸時代に誕生した村名(現在は大字)を用いているのである。土地の人の呼びかたは、後世(近世)漢字を当てる以前の本来の地名であることが多い。

以前に私は、この地名は本来「オオジ(チ)マタ」で「島田」ではなく、大きな

チマタ(巷)を意味する、と聞いたことがある。

チマタは上田敏の有名な訳詩で「巷に雨の降るごとく」という一節を思い出し、街路あるいは町中、とのみ解していた。しかし、古語辞典を引くと「町の中」というのと「道の分かれたところ(岐)」の二つの意味のあることがわかった。大島田近辺が曾て市街地であった形跡はないし、先述の通り中世以前に村はなかったというから、このオオチマタは「大きな道の分かれたところ」と考えて間違いなさそうである。今一つ、「大路又」と考えることも可能であるが、このような言葉があるのかどうかはわからない。

先に、大島田は「大きな

チマタ」だと聞いていたことを書いたが、誰が言っていたのかそれを確かめるため、この地域の歴史に詳しい旧家の染谷勝彦さんに聞いてみた。即座に「それは中世史家の森田洋平さんです」と教えてくれた。しかも森田氏は、古代の官道のあとだと言っていたそうである。先行説があつてむしろ意を強くした。この人の執筆は「我孫子市史研究」に多いので探してみたが、官道についての記述は見当たらなかった。多分一つの推測(アイディア)として人に語っていたのである。

これを聞けば、誰もが気づくことであるが、第一に、これほど長く続く土地名は少ない。非常に目立つ特別な道があったということであろう。第二に、道(ミチ)をドウと漢語読みであることがあげられる。土地の人が名づける場合はほとんど和語で、道堀ならミチボリという。ところが、江戸時代の文書でも「どうぼり」とひらがなで表記されている(注4)。このドウの読みはもともとからの読みには違

いた。だと言っていたことを書いたが、誰が言っていたのかそれを確かめるため、この地域の歴史に詳しい旧家の染谷勝彦さんに聞いてみた。即座に「それは中世史家の森田洋平さんです」と教えてくれた。しかも森田氏は、古代の官道のあとだと言っていたそうである。先行説があつてむしろ意を強くした。この人の執筆は「我孫子市史研究」に多いので探してみたが、官道についての記述は見当たらなかった。多分一つの推測(アイディア)として人に語っていたのである。

道堀(ドウボリ)

地図(左ページ)を見て

いた。だと言っていたことを書いたが、誰が言っていたのかそれを確かめるため、この地域の歴史に詳しい旧家の染谷勝彦さんに聞いてみた。即座に「それは中世史家の森田洋平さんです」と教えてくれた。しかも森田氏は、古代の官道のあとだと言っていたそうである。先行説があつてむしろ意を強くした。この人の執筆は「我孫子市史研究」に多いので探してみたが、官道についての記述は見当たらなかった。多分一つの推測(アイディア)として人に語っていたのである。

ない。つまり古代の官製語である漢語からきている。「国府」「郡衙」「東海道」「平安京」の如くである。「道堀」は官道のドウがそのまま呼ばれたに違いない。

両端の「道堀」の内、沼よりの方に江戸時代以来修験者の堂宇があった。その修験者の家は道堀(ミ

チボリ)家といって現在に続いている。この家の名前が地名になったと言う人もいるが、これは常識的にも逆である。明治2年に、修験者の真明という人が、神官になるため、葛飾界宛に出した願状に、道堀齋宮を改名しているのがはじまりである。(注5)



「堀」について

それでは「道堀」の「堀」は何を意味するのか、当初、私はこの地域に沢山残されていた野馬堀の呼称の一つか、と思っていた。確かにこの「道堀」群の地籍の北側に野馬堀らしい標(しるし)が認められる地図がある(明治三十九年発行、陸地測量部)。そしてそこが地籍の境界にもなっている。普通野馬堀の地名としては「堀込」が最も多い。その他に、馬と関係はないかも知れないが、このあたりでは「新堀」「井堀内」などがある。それらにくらべ「道堀」は如何にも不可解な地名である。

しかし、市川市の国府台遺跡のような発掘された道路跡の両脇に、二条の溝が写っている写真を見たことのある人なら、溝の印象が強いだけに、こういう道を、堀のある道「道堀」と呼んだのであろう、と推察することができる。

更に、もっと「道堀」という呼称にふさわしいのは、溝が無くて、ただ低く

掘り込んだだけの道である。我孫子市の鹿島前遺跡の例がそうである。我孫子市教育委員会の発掘報告書を見ても、報告書作成の時点では道路遺構としては確認されていない。私も報告書を調べたときには、道路遺構が出たというのに何故無いか不思議であった。二条の溝があるものと思いついていたのである。

発掘例では、「最大規模で上部幅7m、底部幅6.5m、確認面からの深さが0.4m、最小規模で上部幅3m、底部幅2.8m、確認面からの深さが0.2mであった。遺跡全般に確認面が低い想定される道路は大きくなると考えられる」(注2)と書かれている。

もう一つの例として、市川市の新山遺跡の道路跡も側溝がない。二カ所発掘されていて、大きい方の「第一地点では上部幅3.5m、4.6m、底部幅3.0m、3.5m、深さ0.85m、1.0m(確認面を基準とした値)の浅い溝

状を呈する。」(注1)とある。

私は、道堀に存在したらしい道路は以上の2例に近いものではないかと考えている。発掘時の確認面は関東ローム層まで下げられるのが多いので、古代あるいは中世の生活面から見ればかなり深くなるであろう。この長く平坦な溝は、如何にも「道堀」という名称にふさわしいものではないだろうか。

なお、当初側溝のある道路を想定していたので、側溝の溝(ミン)を「堀」と呼べるだろうか、という疑問があった。ところが、沼南町塚崎育ちの友人である森かずおさんに聞くと、この地域には「ミン」という言葉は無かったという。例えば、田んぼに水を引く細い水路も「ホリツコ」と云ったそうである。そうだとすると側溝のある道路も当然「道堀」と呼んでおかしくはない。

さらに側溝のある道路も、路面はロームまで掘り下げられているようである。ロームは吸水性があっ

て、表土ほどぬかるむことがなかったのではないかとと思われる。これなら、道路全体が溝のあるなしかかわらず堀状となる。

手賀沼低地の水神遺跡「辻堀」から東北東につづくと思われる道路は、沼寄りの「道堀」あたりからカーブして北に向かうと考えられる。何故なら、その行き着くところに水神遺跡があるからである。

この遺跡は1981年発行の「沼南町埋蔵文化財分布図」に記載されていて、縄文前期(諸磯b)の土器散布地となっている。しかし、20年ほど前に表採に行った頃、土師器や須恵器の細かい破片も数多く散布していたのを見ている。陶器片もあるため、隣の「堂堅峠(ドウケンピョウ)」も含め古代から中世にかけての遺跡であると考えられる。この遺跡は標高にして4m、5mで砂地の畑となっている。沼南町が所蔵する宝永元年(1704年)の手賀沼絵



分けされた不思議な陶片が見つかった。これは器の一部ではなさそうである(写真)。

その頃、千葉県文化財センターに勤務していた若い研究者で、山下亮介さんという人を紹介してくれ

図にも畑の色分けがなされ、今に続いていることがわかる。江戸時代、台地の崖を崩し沼べりに田んぼをつくったといわれるが、その痕跡のない証拠で、遺物が台地から崩された土と共に落ちたものでないことは明らかである。私は、此処は縄文海進時の江、古代中世は浜辺の小さな港町(津)ではないかと見ている。

んという人を紹介してくれらる人がいた。山下さんは土器や陶磁器に通曉している人で、私の採集した沢山の土器片等を見て貰った。水神遺跡で拾った不思議な陶片を見せたところ、一目見るなり驚いた様子で「何故こんなものが落ちて

いるんだ」と叫ぶように言った。そして、これは平安時代の瓦塔(がとう)の一部だと教えてくれた。瓦塔は陶製の塔のミニチュアのようなもので、仏教遺物としては最も大切なものである。私は瓦塔の写真は見ているが、実物を見る機会がないので、未だその破片がどの部分かわから

ないでいる。二つの水神「水神」から「堂堅峠」にかけて、小さな港町があった、という仮定で対岸の港を探してみた。水神山古墳の東側に「舟戸」という字地名がある(水神山古墳のある台地上は、「舟戸台」となっている。『我孫子市史研究4号』)。ここから不思議なことに我孫子側の官道に推定されている国道356号線沿いになめらかにつながる。我孫子駅方面から来る国道は、東南東に進んできて丁度このあたりで東北方向に屈曲している。「舟戸」からだ

つながらるのである。また、沼南側の「水神」と古墳の「水神山」は、地名の点で何か関係があるのではないかと思われる。江戸時代の文書史料を見ると、沼南側の「水神」には「水神下」「水神脇」「水神前」といった、現在では消えてしまっている二つの地名が存在する(注6)。現在、地名として残されてい

る「水神」は低地であるため、あるいは「水神下」であったかもしれない。そうだとすると、本来の水神が中心にあつて「下」「脇」「前」のつく「水神」が閉んでいたに違いない。私は、地名に広範囲に残されているほど、その本体が人々の意識には重要であつたと考えている。この地域にとつては、住吉神社や水天宮のような役割の神社があつたのではなからうかと想像をたくましくしている。

最後に、「堂堀原」の例から類推して、「水神」に接する「堂堅峠(ドウケンビヨウ)」は、本来は「道堅峠」という官道に開わる地名であつたのではないか、という可能性もすべて終わりにしたい。

注1 『千葉県の歴史 資料編考古3』平成10年千葉県刊

注2 辻史郎「手賀沼周辺の道路遺跡」『古代交通研究第7号』八木書店刊

注3 『東葛飾郡誌』大正

12年発行 P1390

注4 『沼南町史料・近世史料1』P77

注5 椎名宏雄「沼南修験道寺院」『沼南町史研究第5号』P41-42

注6 『沼南町史料・近世史料1』P73 元和6年3月(1620年)箕輪村地詰田帳写」から(注4も同じ)

会の活動記録

松ヶ崎城清掃
平成15年3月16日
20人で、約1時間をかけ松ヶ崎城内を清掃。

講演会「手賀沼干拓の虚実」
平成15年3月16日
講師は、千葉経済大学短期大学部講師の中村勝さん。参加27人。内容は5面に掲載(エッセイート北柏・集会所)

松ヶ崎城見学会
平成15年4月19日
松葉地区青少年協会のハイキングにて。案内役は当会顧問・鈴木秀夫さん

講演会「松ヶ崎城と周辺地域のあゆみ」
平成15年5月14日
柏市松葉地区青少年協定期委員会にて。講師は鈴木秀夫さん。

平成15年度総会
平成15年4月29日
14年度の事業報告・決算報告、平成15年度の事業計画・予算報告がされ、承認を得た。参加会員は17人。(柏駅前通り商店街会議室)

【今年度のイベント計画】
松ヶ崎城見学会・古代東海道を訪ねる・城めぐり・沼南町遺跡めぐり・講演会・ビデオ作成・ホームページ立ち上げ

署名・募金活動
平成15年4月29日
(柏駅東口ダブルデッキ)北野道彦賞授賞式

平成15年4月29日
東葛地域の文化向上に寄与した個人・団体に贈られる同賞を当会が受賞。詳細は1面に掲載。(柏、フェニックスホテル)

松ヶ崎城見学会
平成15年5月11日
参加者は20人。ビデオ撮影も兼ねる。

手賀沼・大堀川・大津川の地形学的解析(4)

水中(考古)学のすすめ

寄稿

長沼 映夫

「手賀沼が海だった頃」3号から3回にわたって書いてきた「手賀沼及びその周辺の低地の地質・地下地形と遺跡」は、今回で終わりです。

そこで、今回は、最近、私が見て来た東京低地の博物館の展示物などにも触れながら、私が本稿を書いて来た目的や、今後

の「手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会」に対する私なりの願いを書いて本稿を終わりにしたいと思います。

まず、中央区郷土資料館で「中央区の江戸遺跡」掘った！出た！を見ましたが、その展示場の入口の所に、古墳時代の埴輪の一片と、寛正年中(1460~1465)の室



我孫子市岡発戸の八幡神社に保存されている丸木船(金報4号から。毎日新聞記者・大矢武信さん撮影)

町中期の銘を持つ板碑(石製の卒塔婆)が展示されているのに驚かされました。前者については、埋め立ての時の土に埴輪の破片が混入したものと、簡単に理解できるので、板碑の方は、日本銀行のビル新築現場の地下6mの所から出土、まったく破損摩滅していない状態から見て、どう理解したら良いのかわかりません。このこ

とについても考察する紙数がありませんで、事実だけを述べますが、この埋没理由が分かつたら、今までの常識を覆すようなことが、地形学的に言えるかと思えます。これに似たようなことを、すみだ郷土文化資料館でも体験しました。

さて、話が半分、手賀沼から離れてしまったので、手賀沼、松ヶ崎(城)の方へ話を戻します。会報No.4「炭化の進む丸木船、今こそ保存を」を読み返してみました。まず、同一場所から6隻も出土したことが驚きでしたが、私が注目したのは、関東大震災とそれと係りがあるであろう大濁水が原因で出土したことでした。ただ残念なことに、これ等の丸木船がどのような層の中に、又は丸木船の中の堆積物やそれが載っていた地層など一切不明なようですが、このような地味な追究によって、人々を取

りまく自然環境や人々の生活そして、その現在までの移り変わりを、その目的でしよう。最後に、松ヶ崎のことですが、地名は「真土(まつち)ヶ崎」でしょう。ローム層や常総粘土・竜ヶ崎砂礫層(真土(本当の地層)が露出してハナのことでしょう。それが波浪で浸食されて出来たアラスが城の下にある……そして、その上の堆積物、その中に含まれている遺物を分析すれば、松ヶ崎城のいくつかの謎を解けるかも知れません。ただ、波浪と言っても、必ずしも海だったというだけではありません。私は「手賀沼が海であった頃」と言う表現は好まれません。縄文時代だけでなく、歴史時代に入っても絶えず現手賀沼の湖面は変化していたので、「手賀沼が川であった頃」もあつたのではないのでしょうか。もう一度、新しい眼で低地(関東地方の)を見直すことが大切であることを会の皆様に理解していただきたいと思います。拙文の筆を置きます。

松ヶ崎城の清掃と歴史講演会

～3月16日実施～

小池芳規

た、エステコート北柏の集会所にて、千葉経済大短期大学部の中村勝先生(元東葛飾高校教諭)による「手賀沼開発の虚実」と題した講演が行われました。

中村先生は江戸時代より開始された手賀沼の干拓事業は、実は失敗の繰り返しであり、「成功」にはほど遠かったこと。ところが、書物に誤って記録され、それが定説になっていったこと等々興味深いお話をされました。その際使われた近世の水運図と手賀沼(内川廻し)の地図が、関東出身の私としては非常に興味深いものでした。

3月16日の日曜日。当会では、約20名の参加者を得て松ヶ崎城の清掃を行いました。この場所が一般の住居とは距離があり日常のゴミが発生するところではないのですが、小一時間の作業の結果自転車1台を含め10袋近くのゴミが集まり、市に回収を依頼いたしました。「あそこにはゴミを捨てられる」という意識が心の片隅にあると、指定日に出しそびれたゴミを持ってきてしまうのかも知れません。「いつもきれいにしておく」のが「ゴミ捨て場」を避ける有力手段なのだと思います。

講演会

「手賀沼干拓の虚実」

さて、14時30分より、地元のご好意で借りられ



☆イベント

「古代東海道を検証する」

9月21日(日) 市川・龍ヶ崎

当会で取り組んでいるテーマの一つの古代東海道。平安時代初頭にこの地域を通っていた官道ですが、部分的に発掘された場所以外のルートは不明です。会では2年前に、松戸から柏にかけての推定ルートを歩くイベントを開催。今回は地域を広げ、市川から竜ヶ崎までをバスで巡ります。具体的には市川(下総国府)―松戸―柏―我孫子―竜ヶ崎



2年前の「古代東海道を歩こう」

(常陸の国)。これまで発見された道路遺跡の址と推定コース、相馬郡衙推定地(我孫子市日秀西遺跡)をたどる予定です。講師は高田淳さん。参加は先着50人(会員でなくても可)なので、下記問合わせ先までお申し込みを。
 9月21日(日)▽参加費3500円、資料代500円▽要予約、先着50人▽雨天決行▽昼食は各自持参▽問合わせ 04-7131-8879北さん

☆☆ イベント
講演会「野馬土手は泣いている」

9月28日(日) スタジオWUU

江戸時代、下総台地に設けられていた、徳川幕府直轄の放牧場・牧(まさき)。その名残の野馬土手(のまどて)や堀は身近な場所に残っていました。が、現在急速に姿を消しつつあります。その野馬土手について、流山市在住の青木更吉さんに語ってもらいます。YUUの会主催、当会は共催。

「野馬土手とはどのようなものか、そして、どのように壊されていくかを話します。常磐新線敷設で、この地域の重要な野馬土手がいくつも消失しました」と青木さん。広大な小金牧を歩いて調べた野馬土手の他に、史料に基づいた牧の歴史についての話も。写真を多用したビジュアルな構成で、江戸時代に行

バザー品を集めて

います

8月10日(日)

手賀沼ジャズフェスティバル・フリーマーケットに当会も参加するため、バザー品を集めています。古着・食品は原則的には扱いません。タオル・シーツ・石鹸などの日用雑貨がよく売れるようです。ご協力、よろしくお願ひします。

収集日▽8月10日(日)午後1時〜3時▽松葉町第2青山ビル3階▽手賀沼ジャズフェスティバル開催は、8月24日(日) 柏ふるさと公園内

インターネットで情報を流しています。メールリングリストも開設、登録受付中

会事務局から、会員の方へ電子メールでイベント情報などを流しています。現在事務局とインターネットでつながっていない方は、下欄の事務局アドレスへ「お名前・アドレス」を明記の上、送信ください。また、会員専用のメールリングリストも立ち上げています。会員同士の情報

交換にも利用できます。詳しくは事務局まで。

「松ヶ崎城址の活用と保存」のため、署名・募金活動を続けています

昨年11月から、「松ヶ崎城址の活用と保存」を求めて、会役員を中心に署名・募金活動を行っています。非常に保存状態が良く、緑に覆われている松ヶ崎城址は、この地域にとって必要なものであると考えています。

「松ヶ崎城Q&A」「署名用紙」を用意しました。ご協力いただける方、事務局までご連絡ください。

新年度の会費納入
お願ひします

年会費は2000円、納入がまだの方には、「納入のお願い」を同封しています。

おいしい料理を
食べ歩きましょう

会の有志で、近辺の美味しいお店のランチを楽しむグループを作っています。今のところ女性ばかりですが・・・。前回は第1回目で柏市柏の「モダンタイムズ柏店」。今回は、暑さが峠を超える9月初旬平日に、「そば会席」を計画しています。参加は会員でなくてもOK。一緒に食べてお喋りしませんか。詳細は未定ですので、下記までお問い合わせを。

▽問い合わせ 松平さん
TEL・FAX 04-7133-6438 留守電への吹き込み、FAXでの問い合わせも可

▽事務局(電話・FAX)
北絃子 〒277-0835
柏市松ヶ崎415-5、1-206
TEL・FAX 04-7131-8879
▽会員専用事務局(電子メール)
浦久 jrara@gaea.ocn.ne.jp
▽会報作成 浦久淳子・新名克子・増田泰子

振込み先は左記。よろしくお願ひします。
▽問い合わせ 会計松平
信子 TEL・FAX 04-7133-6438
▽会費振込み先 千葉銀行柏支店(店NO-008)
普通預金3461475
(手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会 伊江有可里)